

社員の品質管理意識改革と 品質管理体制構築

一品一様のものでづくりを主力とする中、属人的ではなく会社として高い品質を維持できる品質管理体制の構築を目指し、現場の状況を確認した上で、まずは社員の品質管理意識の改革が必要と考え、対策を立案、実行した。

▼ 取り組み内容

Step 1
現状確認

品質管理の現状を現場でチェック。些細な確認ミスや見落としなど、ポカミスが頻発している状況を把握。

Step 2
5S強化

社員の意識を高めるため、5Sの必要性を啓蒙。同時に5Sのルールを策定し、QCサークル活動にて実施。

Step 3
自律促進

不良の原因の本質を見極め、自ら対策を打てるように、“なぜ”を追究する意識を植え付ける。

Step 4
改善の定着

絶え間ない改善を企業風土として定着させるため、提案制度の簡素化など仕組みづくりに着手。

受入企業

株式会社 ヤマシタ

代表取締役社長 福山 雅典 さん

1960年にビル用サッシの取付業で創業。その後、金属加工業を開始し、特にステンレス製建築建具の製造では全国屈指の規模と技術力を誇る。また、建築分野で培ったノウハウを生かして、大型の土木インフラ構造物や工場プラント設備、半導体製造装置用の精密部品など産業機械に用いられる金属製品の製造も手掛けている。

協力研究員

中村 真記 さん

兵庫県出身。1991年に三重大学大学院工学研究科修了後、日本板硝子株式会社に入社。ほか製造業4社（大企業、中小企業、ベンチャー）で勤務し、ガラスやセラミックスへの成膜技術関連の研究、商品開発、生産技術開発、製造プロセスマネジメントを経験。この間、通信レンズやディスプレイ、建築、コンデンサなど多岐にわたる製品分野に従事。



富山 “Re-Design” ラボ 事例

CASE:

意識改革と
体制構築による
品質管理の強化

取り組みの成果
・
今後の取り組み

- ・5S徹底のため、仮基準として「ヤマシタの5S」を策定。QCサークル活動を通じて推進し、建屋の半分以上のスペースを確保するなど成果を挙げた。今後はブラッシュアップと水平展開を目指す。
- ・不適合報告書のフォーマットを「なぜなぜ分析」に主眼を置いたものに改定。不良発生時などに、“なぜ”を繰り返すことで、本質的な原因を追究する意識が高まってきた。
- ・こうした取り組みの結果、社外に流出した不良率は前年同期比で約30%低減した。

受入企業の評価・今後の関わり方

参加理由

- ・当社は基本的に一品受注生産型の企業です。そのため、標準化した品質管理手法の導入が難しく、属人化してしまっており、誰が作っても高品質を保てるよう、外部人材の力を借りて従業員の意識を高め、品質管理システムを構築できればと思い、参加しました。

評価（成果・社内変化など）

- ・これまで品質管理コンサルタントの指導を受けたこともありましたが、我々の理解が追い付かず、十分に実務に落とし込むことができずにいました。中村さんが、その際に生じていたギャップを埋めるような支援を実行してくれたおかげで、品質管理体制の構築に向けた土壌づくりが進みました。
- ・中村さんが提案してくれた施策を通じ、現場でも、物事の本質を追究する意識が高まり、論理的に考え、言語化して発信する力が養われていると感じます。会社が良くなれば、社員にも恩恵があると理解し、前向きな姿勢で5Sや改善活動に取り組む社員も増えました。人材不足の中小企業にとって、メリットの多いプログラムだと感じました。
- ・プログラムの目的の一つ、富山への定住促進にも貢献できました。

今後の関わり方

- ・中小企業から中堅企業に脱皮するためには、直接生産に関わらず品質管理を推進する人材が必要です。この半年で現場は確実に変わりつつあります。中村さんには、ヤマシタがもう一段上のステージに進むため、正社員として力を尽くしていただければと思っています。

協力研究員の評価・今後の展望

参加理由

- ・ウェブ上での就職エージェントからの案内がきっかけで、本プログラムに参加しました。人生の後半に差し掛かり、これまで培った知見や技術を、今までとは違った形でどこまで生かせるかを考え、試すよい機会になると考えました。

評価（取り組み・生活）

- ・ものづくりの基本は5Sとの考えから、QCサークル活動を導入して5Sを推進しました。また、不良の原因の本質を見極める力を養うため、不適合報告書のフォーマットやヒヤリ・ハット報告制度の改定などにも取り組みました。
- ・前半はこれまで培ってきた知見をヤマシタの従業員に徐々に浸透させる活動が効果を挙げ、品質管理に対する意識も向上していると感じました。一方で後半は会社が繁忙期に入ったため、思ったように風土改革の取り組みが進まなかったことは反省点です。
- ・本プログラムで得た他の研究員からの刺激は、今後の自身の人生設計をリデザインする上で、非常に有用でした。

今後の展望

- ・本プログラム終了後、正社員としてヤマシタに入社します。今後は富山に定住し、ヤマシタの経営層が考える品質意識改革をはじめとするものづくりの再構築に向け、自身の知見を生かしていきたいと思っています。